

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい雰囲気、表現することを楽しみながら取り組んでいる。一方で、音楽の知識や技術が豊富な児童が積極的に発言して授業を先行し、苦手な児童が考える時間を取れなかった。考える時間を確保していくことが課題である。 ・一つの曲に含まれる様々な要素をバランスよく触れて授業を行ってきたが、本時の振り返りで、何を身に付けたかを振り返る際、焦点が絞れなかった。明確な目標設定が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽に対して苦手意識がある児童にも、基本的な既習事項の確認など、発言する機会を毎時間設定し、皆で考えながら楽しく学んでいく雰囲気を作っていく。 ○新しい学習の導入では、既習事項や日常生活と絡め、児童が理解しやすく、学習の意欲が高まるような工夫をする。 ○曲の中に含まれるたくさんの音楽を特徴付けている要素から、本時に身に付けさせることを厳選し、学習計画を立てる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽的な表現を楽しみ、自らの思いを表現に生かすことができる児童が多い。一方で、表現への意欲が乏しく、私語や悪ふざけにつながってしまう児童も少数みられる。皆で表現を高め合う雰囲気を作っていくことが課題である。 ・一人一人の表情をみて、理解の遅い児童や活動に集中できない児童などに、適切な声かけをすることが十分にできなかった。個別指導を効果的に行っていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○素晴らしい表現の視聴覚教材や友達の演奏に多く触れる機会を作り、児童が進んで表現してみようとする雰囲気を作る。 ○授業者が話しすぎ、児童が受け身になっていないかを意識し、児童が主体者となって意欲的に表現活動を行えるようにする。 ○授業の随所で机間指導や個別指導を効果的に行い、わからない児童や頑張っている児童に声をかける。担当する全ての児童の名前や音楽に対する態度などの把握に努め、その子なりによい表現をしていた時などを逃さずに褒めて音楽が好きな児童を育てる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽的な表現へのあこがれや意欲をもっている児童が多数みられるが、題材によっては表現するために必要な技術が十分でないという思いからか、消極的になってしまうことがあった。表現に必要な基礎的な技術を身に付け、自信をもって演奏に臨めるようにすることが課題である。 ・音楽に関する語彙が乏しく、聴いて感じ取ったことを言葉にすることが苦手である。音楽に関する語彙を増やしていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童によって音楽的な知識や技能に差があるので、段階別な課題を準備して各自が目標をもてるようにする。また、互いの演奏をよく聴き、相手の演奏のよさを言葉にして伝え合うことを習慣化させることで、皆で一つの曲をつくり上げる素晴らしさや達成感を味わえるようにする。 ○音楽表現に対する意図や音楽鑑賞で感じたことなどを伝える際、言語によるコミュニケーションが苦手な児童のために、どのように伝えたらよいかわかるように「音楽でよく使う言葉の例」を掲示しておく。